

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
--

学校名	唐津市立七山小中学校
1 前年度 評価結果の概要	① 全職員で研究授業を重ねて研鑽を積み、授業公開を実施することができた。この気運を下げることなく、一層学力向上に向けて小中連携した授業づくりに取り組む。 ② 食物アレルギー、気になる児童生徒、問題行動等について日ごろから小中職員全員で情報共有を行い、関係機関や保護者とも連携して対応できた。 ④ 学校の情報は事細かにはなまる連絡帳によって保護者に伝えたことで、学校行事等への保護者の関心が高く、協力を得ることができた。 ③ 電子媒体を駆使した業務効率化が大変功を奏しており、職員の業務効率も確実に上がっている。
2 学校教育目標	「感謝の心を持ち、自立に向かう子どもの育成」 ～お互いを「おもいやり」、ひとりひとりが「輝き」小中一貫教育を通して自ら学び・考える力を伸ばし、自己実現を目指す～
3 本年度の重点目標	① 学力向上 ② 生徒指導と心と体の教育の充実 ③ 開かれた学校づくり ④ 新型コロナウイルス等の感染症対策

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイルランの成果指標を達成した教師90%以上	・校内研究推進委員会の組織を充実させ、研究主題及び重点的な取組事項を明確にする。 ・「単元全体の見通しと現在の把握」の充実を重点目標とした授業改善に取り組む。 ・授業参観週間、授業研究会を計画的に実施し、職員の実践意識を高める。
	○学習規律指導の一貫性の向上	○自ら意欲的に学習に取り組んでいると答える児童生徒を90%以上にする。	・学習の3構え(心構え・物構え・身構え)への意識向上とともに、全校児童生徒が徹底できるように全職員で指導する。 ・授業の構えの取組、家庭学習習慣の確立について保護者に周知する。 ・学期ごとに学習アンケートを実施し、児童生徒自身が振り返り、学習に向かう意識を向上させる機会とする。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権について真剣に考えることができる。(90%以上) ○道徳の授業で自分の考えを持ち、発信することができる。(90%以上) ○他者の多様な考え方をしっかり聞くことができる。(90%以上)	・各ブロックで人権教室を月1回計画的に実施する。 ・考え、議論する道徳授業の実践。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの解決、解消(100%)	・「Q-U」、「いじめアンケート」、中学生に「心のアンケート」を実施し、児童生徒理解に努める。 ・日常の児童生徒観察に努め、問題行動に対してチームで早期に対応するとともに、保護者との連携を図る。				
	○異年齢集団の活動の充実 ◎夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む教育活動の充実	○小学生から中学生まで一緒に生活する学校でよかったと思う(児童生徒、保護者、学校職員、地域関係者の各90%以上)。 ◎感謝の気持ちや自らの目標などについて他者に伝えることができる。(80%以上)	・児童生徒会本部と専門委員会とが連携して自治活動を行い、校内の行事を充実させる。 ・歓迎遠足、体育大会、ボランティア活動等を通して、異年齢集団での活動を充実させる。 ・9年間を見通した特別活動を計画し、自己肯定感を高める活動を実践する。(キャリアパスポートの活用) ・6年生では卒業プロジェクト(感謝を伝える活動)、7年生では立志式を実施することで、将来へ向かう志を持たせる。				
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化と運動意欲の向上」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%及び体を動かすことが好きだと答える児童90%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	①休み時間の運動場、体育館の割り当てを、施設を有効活用させることで、進んで運動する場を設定する。 ②なわとびやマラソン大会等の競技会を催し、そこに向けた練習期間を工夫する。 ③食事に対する意識と摂取栄養素に対する知識を高めて、好き嫌いを、マナーを守った食事ができるようにする。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各職員が毎日及び月の勤務時間を把握できるように、業務記録管理ソフトの有効活用を図る。 ・県、市で示された部活動一斉中止日及び定時退勤日の設定。 ・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。				

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○危機管理	○安全・安心な教育活動の推進 ○新型コロナウイルス等感染症の対応	○緊急連絡体制としての学校メール登録180%(全保護者)及び連絡 ○緊急事態における教育活動の調整及び確保	・メール登録の確認を確実にし、未登録者や受信できない保護者への連絡方法を随時確認する。 ・危険マップの更新、通学路の安全点検の実施。 ・感染防止対策を工夫しながら学校行事を実施する。 ・感染症防止対策マニュアルを状況に合わせて見直し、教職員、保護者と共通理解を図る。
○開かれた学校づくり	○地域との連携強化による学校教育のさらなる充実 ○保護者・地域各機関と連携した児童生徒の見守り	○学校だよりや学級通信、はなまる通信等により情報発信を行う。(少なくとも隔週に1回発行する。) ○学校は育友会や地域と連携した取組を行っている(保護者、教職員、地域関係者90%以上)。	・学校だよりやHPにより情報発信を行う。 ・地域の学習材や地域人材、外部団体の効果的活用を各学年の教育活動に位置付け、充実を図る。 ・育友会への情報発信を随時行いながら、連携してできる活動を積極的に行う。				

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育
----------------	------------------------